

平成29年度  
Social Community Nursing (SCN) 機能に関する  
研究委員会

2. 韓国における SCN 機能に関する調査報告書

— Health Care Center (ヘルスケアヘルスケアセンター) 視察報告 —

【韓国 ハナン市】

視察者：山本則子，野口麻衣子，稲垣安沙

2018年3月



## 1. H. C. C.創設の背景

韓国では、Ministry of Health and welfare の管轄で、2000 年から全国の保健ヘルスケアセンター (Health Center) で使えるデータセットを発展させる取り組みが行われていた。2007 年、Ajou 大学看護科学学科教授である Mi-sook song 氏 (写真 1: 右から 2 番目) が主導し、政府からの助成金を得て今回ご紹介するプロジェクトが始動した。2014 年からは、7 つの市で試験的に施行され、データセット項目及びシステムを洗練させて行った。2016 年度より全国で統一されたシステムが導入された。



写真 1 視察にご協力いただいた H. C. C 職員及び視察者 (左から 2・3・4 番目、右から 4 番目が Mi-Sook Song 教授)

## 2. ハナン市

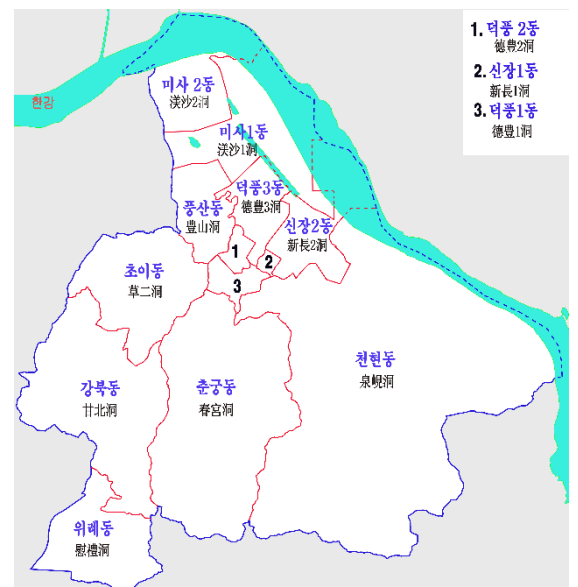
ソウル市の東に位置しソウル市内から車で 1 時間ほどの距離にある。黔丹山 (コムダンサン) を中心に山に囲まれた盆地で北、東を漢江に囲まれる理想的な立地である。総敷地面積のうち緑地地域が 84.11% である 78.26 km<sup>2</sup>、全体の面積の 77% が森林地帯である。2010 年度以前は、立ち遅れた地域であった。京畿道の開発とともに隣接するソウル市江東区が発展し、ソウル市の宅地が枯渇してマンション開発が開始されると、2013 年度以降には、人口の急増とともにソウル市のベッドタウンとなる。2017 年には最も高い時価を期待される富裕層の住む地域となっている。



図 1 ハナン市外観

ハナン市は 13 の行政区に分かれている。(図 2) 図 2 の赤丸をつけた部分が特に人口の流入、増加が多い地域である。

2014 年ハナン市の産業の総従事者数は 56,201 人で、京畿道総従事者数の 1.3% を占めている。農林漁業 (1 次産業) は、7 人で比重が低く、鉱業と製造業 (2 次産業) は、8,109 人で 14.4% の割合である。商業およびサービス業 (3 次産業) は、48,085 人で 85.6% の割合を占めている。3 次産業部門では、事業サービス業 (5.6%)、卸・小売業 (32.4%) と宿泊施設や飲食業 (7.9%)、教育サービス業 (5.1%) が大きな割合を占めている。2017 年 9 月現在、20 の小学校、9 つの高等学校、2 つの特殊学校がある。



総人口 166,713 人 (2015 年度)

世帯数 66,797 世帯 (2015 年度)

総敷地面積 93.04km<sup>2</sup>

人口密度 2,543.56 / km<sup>2</sup>

<https://ko.wikipedia.org/wiki/하남시>, <https://namu.wiki/w/하남시> 参照

### 3. ヘルスケアセンターの位置付け

ヘルスケアセンターの対象は地域に暮らす全ての人々である。ヘルスケアセンターは複数の部門に分かれており、今回視察をしたハナン市のヘルスケアセンター「高齢者訪問部」である。高齢者訪問部は、人口約7,500人、5,000世帯をカバーしている。「高齢者訪問部」とは、ここは障がい、貧困層、独居高齢者などの脆弱な社会背景を持ちながら暮らす高齢者を対象にする部門である。ヘルスケアセンターには他にも、精神障がい者や重症心身障害児など様々な担当部門を持っている。



写真2 ハナン市ヘルスケアヘルスケアセンター外観

高齢者訪問部に該当する住民の名簿はハナン市からもらう。市は、一定の基準を用いて高齢者を選択し、高齢者訪問部に名簿を渡している。  
(障害者手帳の有無、独居、認知症の程度などのデータ)

#### <ハナン市ヘルスケアセンター「高齢者訪問部」>

- 営業形態・・・月～金 8:00～16:00
- スタッフ 11人(全て常勤)・・・看護師 10名、理学療法士 1名
- 高齢者訪問部のナース1人の担当世帯・・・400～500世帯
- 利用者の費用は基本的に無料。現在は政府の助成金で稼働しているが、来年からは自治体からの資金での営業を目指している。

### 4. ヘルスケアセンターの取り組みの概要

1) コンセプト 「Don't leave them alone at home. 家で一人にさせない」、「人と人をつなげること」

独居高齢者や脆弱な背景を持つ人たちは、家に引きこもりがちとなり、それによる要介護状態になるリスクが高い。要介護状態になることを遅らせ、ヘルスプロモーション、セルフケア能力を向上させ、医療費の削減を狙う。

2) 訪問事業



写真3 左上：看護師が常時携帯する訪問バッグ  
右上：血糖チェックキット 右下：訪問先住所録  
左下：アルコール綿

担当する高齢者全員に、一人の担当看護師を決め、必ず月に一回は全戸訪問を実施している。訪問時間は各 30 分程度である。基本的なバイタルチェック、看護指導や、訪問時に一緒に冷蔵庫の残り物を見て料理をする活動や、高齢者が作った料理の塩味を確かめる(HT、DM の場合の塩分コントロールができていないか)など活動は多岐にわたる。

写真3は、訪問する際に看護師が携帯している訪問バッグである。中には血圧計、聴診器などの基本的なもの他、血糖チェックキットや患者指導のための資料など、予防、セルフケア能力に軸を置いた介入が実施されていることが見て取れる。

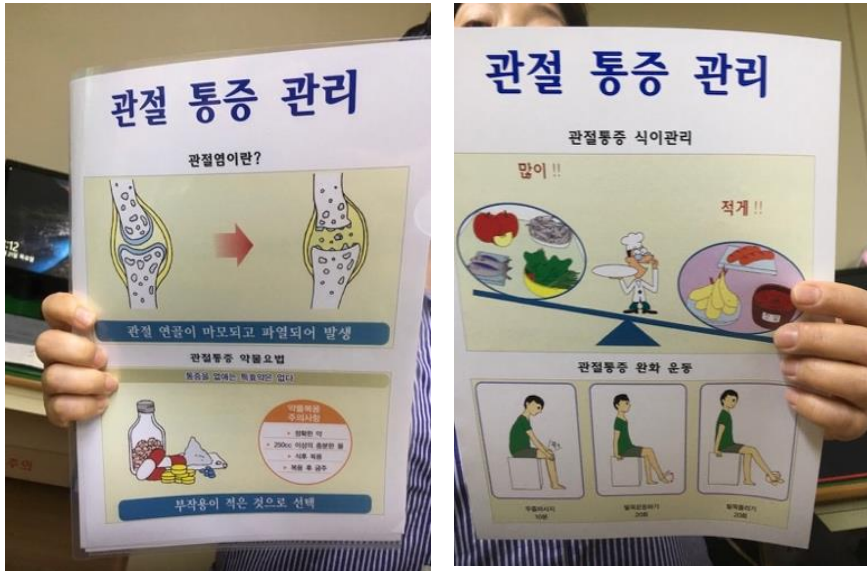


写真 4 は訪問バッグに入っている教育資料である。この資料は、CDC(Cancer for Disease Control Korea)が主導して開発したものである。

写真 4. 教育に用いる資料

### 3) デイケアサービス

デイケアサービスにも、介護・疾病予防、セルフケア能力に主軸をおきつつ、高齢者同士のつながりや、ヘルスケアセンターに来るのが楽しみになるような趣向が凝らされている。写真5は、当ヘルスケアセンターで開発された塗り絵カレンダー。難易度が異なる塗り絵カレンダーを用意しており、高齢者の認知機能のレベルに合わせた塗り絵カレンダーを選択できるようにしている。また、塗り絵カレンダーのコンテストを開催し、表彰も行っている。これらは、活動のやる気を引き出し、高齢者自身に楽しみを持ってもらうための工夫である。

デイサービスは楽しみながら高齢者の教育の場でもある。写真6は、禁煙指導のために使用する紙芝居である。他にも、音楽に合わせてカップを鳴らすゲーム(高齢者同士の共同によるつながりの強化。)大会を開催し高齢者同士がチームになって協働することでつながりの強化を促す試みや、アルバムを作って記念に配布するなど様々なプログラムが行われていた。



写真 5 塗り絵カレンダー 右下がやや難易度の高いもの

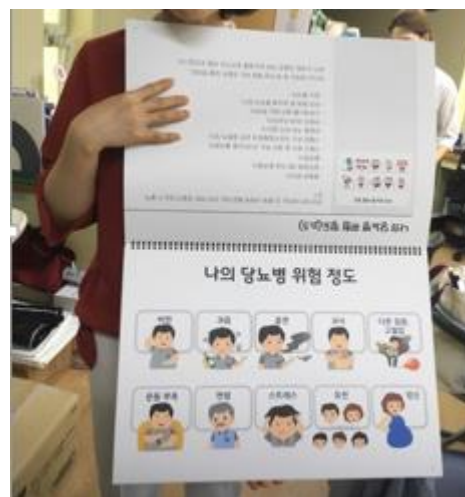


写真 6 禁煙指導に使う紙芝居

#### 4) その他の取り組み



写真 7

ヘルスケアセンターの連絡先を書いたステッカー。担当訪問看護師の名前も一緒に記載されている。療養者の各自宅のわかりやすい場所に貼付する。療養者が看護師の名前を覚えてもらうことで、ヘルスケアセンターに愛着を持ってもらえるようになる効果もあるという。この名前を頼りに、療養者自らが訪問ヘルスケアセンターをふらりと立ち寄ることも頻繁にあるという。



写真 8

自宅内衛生を保つためや日々のちょっとした困りごとを解決するための様々な医薬部外品やサポートグッズを、ニーズのある人に無料で配布している。写真は、ゴキブリホイホイや虫除けスプレー、栄養補助飲料、ハンドクリーム、消毒剤など。

#### 5. ヘルスケアセンターの持つデータベース内容

- 医療・介護・社会的データが包含されている。家族構成も細かく入力される。(同居家族、キーパーソン、子供の有無、シングルペアレント、近所に家族、親戚が住んでいるかなど)
- 定量化できる質問票を用いて、看護師の月に一度の全戸訪問の際に評価し、データベースに入力することで継続的に記録を蓄積していく。
- スタッフは、システム導入初期の頃は入力項目が多く大変さを感じていたが、今では作業に慣れ、苦にならなくなっているようだという。
- 年一回ハナン市に、データの分析結果を掲載した報告書を提出する。

#### 6. その他

- 視察中に、ある高齢者が自分の担当の看護師を訪ねて事務所を来訪する姿があった。このように、担当看護師を認識してもらうことで、ヘルスケアセンター「高齢者訪問部」に来ることのバリアを取り除き、親しみを持ってもらえるような取り組みを行っている。活動の拠点を持ちつつも、Outreach 型の活動を組み合わせて、フレイルな高齢者への支援を提供していた。